

プラスファ通信



今月のテーマ Facebookリブラから学ぶブロックチェーン

今年6月18日(現地時間)、「米Facebookは新暗号通貨「Libra」(リブラ)を発表した。2020年から提供する予定」とのニュースが全世界に衝撃を与えました。



ウィキペディアを見てみると、「米フェイスブック社が2020年より開始する、暗号資産を用いた金融サービス。買い物の決済などに使用したり、スマートフォンの利用者間で送金したりすることを想定している。一定比率でドルやユーロなどと交換できる「ステーブル(安定した)コイン」の一種であるため、価格変動が大きく価値の裏付けがないビットコインとは異なり、銀行口座や国債などの現金に近い資産で価値を裏付け、価格変動を抑えられる仕組みになっている。発行組織には米決済大手のビザやマスターカード、ペイパルなど約30の企業や団体が名を連ねる。しかし、フェイスブック社が過去に大規模な個人情報流出を招いていることから安全性への懸念もあり、米下院金融委員会は同社に、議会の調査を受けるまでサービスの開発を中止するよう求めている。」とあります。

仮想通貨と聞くと、ビットコインなどを想う方が多いと思いますが、リブラ構想のすごいことは、Facebookの全世界利用者数は30億人に及ぶとも言われています。ビットコインの全世界の利用者数が数千万人にすぎませんから、桁が違うということです。中国やインドを凌ぐ人口が利用するFacebookをベースとしたリブラの登場が、世界に革命を起こすことは間違いありません。だからこそ、世界各国がその導入に否定的になるのもわかります。

さて、このリブラやビットコインに代表される仮想通貨サービスが成り立つ上で非常に重要な技術と言われているが、「ブロックチェーン」という技術です。私も専門ではないですし、先日講義を受けてみたのですがやはり難しくよくわかりませんでした(笑)ただ、ブロックチェーンなどという言葉が使われるから難しそうに思いますが、要はデータベースのことを指すようです。もっと言えば、「台帳」のこと。物事の取引を記録する台帳です。その取引記録が入った台帳1つ1つを「超機密性の高いチェーンで結んでいく技術」のような感じみたいです。難しい話はネット検索にお任せして、私がこのブロックチェーン技術の素晴らしいと考えた点は、次の1点です。「1つ1つの取引(お金)そのものに、誰が、誰に、どこで、何を、どうやって、というラベルを張って管理することが可能となる」のです。

つまり何を意味するのかというと、会計事務所は不要になるということです。私たちの生業とする会計仕訳という作業は、要は個性のない数字に科目を貼り付けてゆく作業なのです。そのために専門的な知識が必要で、それでも間違いを起こすことも無くはありません。ですが、ブロックチェーンを使えばリアルタイムで処理をし、ミスも起こさずに済むようになります。私たちは不要になります。そういうものすごい世界がこれから待っていると思うと私もゾクゾクします。「ああ、私たちの時代も終わりだ」なんて弱音を吐いている暇もありません！

リブラ構想に賛成的なマネックスグループの松本大社長のインタビュー記事を見ると、「ブロックチェーンや仮想通貨はインターネットが生活を変えたように世の中は大きく変わる。リブラはその大きな柱の1つ、あるいは大きな柱をつくるきっかけになる可能性がある」とおっしゃっています。



横溝会計 新プロジェクト「結いごと」 来春オープン予定

Facebookのリブラ構想に対抗したわけではないですが、横溝会計でも新プロジェクトが水面下で着々と進んでおります。今回はこのプロジェクトのサービス名とロゴを先行的に公開いたします。

今後の当サービスについては、主に横溝会計のFacebookページにて順次公開していく予定です。「どんなサービスなのか」「どう変わるのか」「横溝、大丈夫か?」という情報を順次、出し惜しみしながら皆様にお伝えできれば幸いです。

サービス名は「結いごと」です。
ロゴは左のような形に決定いたしました。



今後の展開をお楽しみに！